

〈こどもとアート〉の現場を考える 実施報告書

1. 概要

日時：平成26年8月8日（金）10：30～14：30

会場：大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] 4F/ルーム1

テーマ：キッズ！ファンタスティック☆ミュージアム

参加者：21名

主催：大阪新美術館建設準備室

共催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター

企画運営：キッズプラザ大阪

助成：一般財団法人地域創造

2. 目的

美術館・博物館などの文化施設が〈こどもとアート〉の積極的な活動の場となるように、実践的なプログラムを発信していくことを目的とします。大阪新美術館建設準備室および共催の大阪府立江之子島文化芸術創造センターが、美術作品や学芸員といった資源を活かしたワークショップを実施することで、実際の美術作品のもつ力を最大限利用し、こどもがアートに触れ、豊かな感性や創造力、コミュニケーション能力を育むための新たなプログラムを提示します。

3. 実施内容

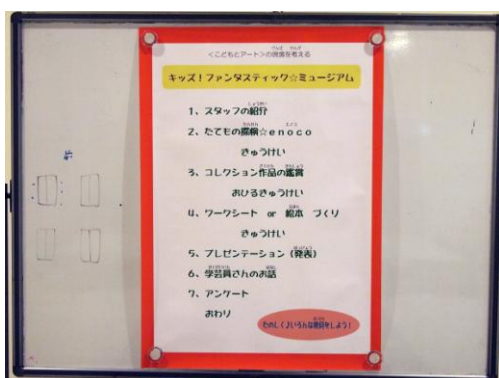
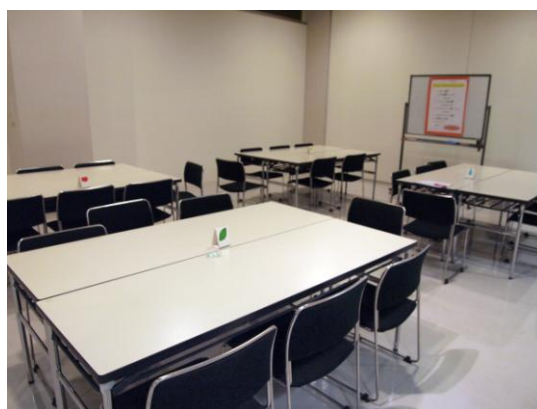
(1)概要

まず、フレームを用いて風景を切り取り、建物や身近なものを注意深く見る体験をします。そのあと、大阪府20世紀美術コレクションである本物の美術作品を見ながら、絵のいろいろな見方について対話型鑑賞を行います。最後に、鑑賞で感じたことを自由にオリジナルの絵本やワークシートづくりで表現します。

(2)実施の流れ

① 当日のセッティング

部屋の前方にホワイトボードを設置し、一日のプログラムを掲示。座席は長机を2つずつ合わせ、椅子を7こ並べたものを4組用意しました。机の上には、班ごとのマークを名札に張るためのシールを準備しました。



←当日のスケジュール

② グループ分けと自己紹介

あらかじめ学年別に分かれてグループ分けをし、受付時に伝えました。グループごとに座ってもらって、全体進行役の岡田さんからワークショップの概要と注意事項等の説明がありました。スタッフ紹介と、グループ内での自己紹介を行いました。グループ編成は
青組 1～2年 4名、黄組 1～2年 5名
緑組 3年 6名、赤組 4～6年 6名。



③ 探検

鑑賞へのアプローチとして、注意深く物事を見るための準備運動に enoco 内の探検を行いました。段ボールで作った黒い縁のフレームを、ひとりひとつ手にもって、建物の周辺と中の風景を切り取りながら探検しました。全体を見たり、フレームを使ってフォーカスしてみたりする中で、切り取って見てみるといつもと違って見えることや、色や形の面白さに気づくことが出来ました。



④ 作品のない展示空間鑑賞

何も飾られていない展示会場に入り、その空間を体感しながら、心を落ち着かせて作品と向き合う気持ちをつくっていきます。壁をさわりながら歩いたり、好きな場所に座ったり、寝転んだり・・・しっかりと何もない空間を味わいました。(1グループごとに1展示スペース)



⑤ 対話型鑑賞

10分間の休憩のあいだに、1展示スペースにつき1作品を展示し、子どもたちと対話型鑑賞を行います。子どもたちの素直に感じる力を引き出すように、何が見えるか？なぜそう思うか？といったナビゲーターからの問いかけで、子どもたちからは次々に意見が飛び出しました。



鑑賞作品として取り上げたのは、以下の4点の作品です。たくさんの面白い意見が出ました。

(鑑賞作品には大阪府20世紀美術コレクションを使用)



←犬と顎の骨が浮いているように見えるから合成ではないのか？

犬と顎は仲が悪い。

犬は奥の島に行きたいのに、波の階段が崩れてしまっていて行けない。

犬の仲間を顎が食べた？！

犬がさみしそう・・・。

(小学校高学年グループ)



←女の人と男の人がいる！

半円のところは、虫が首をかしげて笑っているように見える。

(小学校3年生グループ)



←逆さまの人たちはボンドで天井にくっついている。

机は釘でさしてある。

先生のような人の黒い影が欠けていて不思議。

フックが月に見える。→ここは月の世界で、宇宙空間だった！

(小学校1・2年グループ)



←表面がぷつぷつしている。

大きなお花みたい。

蝶が飛んでいる。いいや、リボンがたくさんある！

人が花を囲んで上を向いている。

(小学校1・2年グループ)

⑥ 制作

ワークシートもしくは絵本のどちらかを選択して制作しました。用意されていた試作品を参考にしながら、鑑賞で獲得した感性を記憶に残していきます。鑑賞した作品をカラーコピーしたものを切り貼りして、コラージュしたところに、色鉛筆で様々な想いを書き込んでいきました。アイデアはどんどん溢れてきます。

(準備物：はさみ・のり・色鉛筆・画用紙・鑑賞作品のカラーコピー・試作品・ゴミ袋)



⑦ 作品発表

自分たちが考えたこと、工夫したところ、鑑賞者に楽しんでもらいたいことなどを発表しました。ともだちの発表を聞いて、いろいろな感じ方や表現の仕方があることを知ることができました。

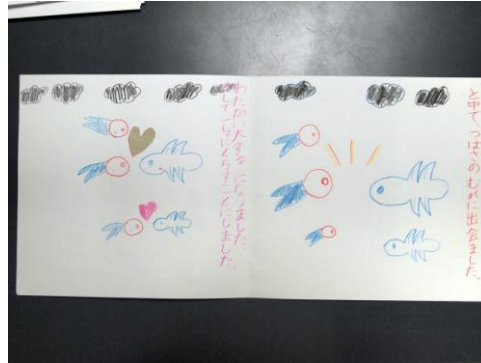
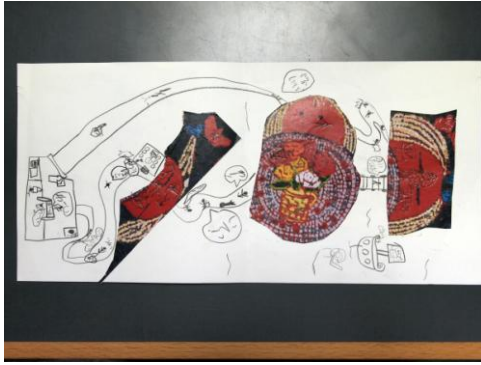


⑧ 鑑賞作品の解説

最後に、学芸員から鑑賞作品の詳しい解説を聞き、作品の背景や作者について学びました。グループごとではなく、全員で4枚全ての作品を鑑賞しました。



(2)完成作品



4. 評価と課題

(1)実施内容についての評価

▶□このワークショップを通じて、子どもたちは実際の美術作品に触れ、対話型鑑賞で感じたことを自由に発言することによって豊かな感性やコミュニケーション能力を育み、鑑賞で感じ取ったことを表現することで創造力を養いました。

工夫

・探検の時にテンションが上がりすぎてしまったので、鑑賞前にすぐに部屋には入れず、部屋の前で一旦クールダウンさせるようにしたことで、心を落ち着けて鑑賞に臨めました。

評価

- ・施設内探検は子どもたちどうし、そしてナビゲーターとも仲良くなれたので、その後の対話型鑑賞の際に意見を出しやすい雰囲気づくりになりました。
- ・対話型鑑賞の際、子どもたちは作品をしっかりと見てくれており、目に見えていないこと・深い話をしてくれました。
- ・本物を使ったからこそ、色や質感の違いに気づけて、子どもたちの意見は想像していたものを越えました。やはり本物を鑑賞することに大きな意味があります。
- ・ワークシートづくりは、つくりながら鑑賞に繋がっていたので、大阪府 20 世紀美術コレクションを鑑賞するには適した題材でした。
- ・作品の本の内容がとても深く、生と死をテーマに循環する命の大切さに触れた作品がありました。また、自分の意見とまわりの意見をうまくまとめたワークシート作品もありました。
- ・はじめは発表を嫌がっていた子どもも、実際発表してみると嬉しそうに自分の作品の紹介をしていました。

(2)課題

学年における課題

- ・高学年は対話型鑑賞の時間をもっとたくさん、低学年は制作にもう少し時間がかかる、など時間スパンに違いが出たので、高学年と低学年に分けてワークショップを行うのはどうか、という意見がでました。しかし、高学年は忙しくて集まらず、低学年の方がたくさん集まるので、分けてするのは人数上難しいのが現状です。6年生が低学年をナビゲートするなどがあれば、1～6年生で一緒にやる意味があるのでは、という意見も出ました。
- ・1年生と6年生では同じ課題をさせても面白い違いが出るので、同じ写真を使って学年を入れ替えると、また違った発見があつて面白いかもしれません。
- ・今回のテーマは少し高学年向けに偏ってしまったかもしれない、という反省点も上がりました。

グループ分けにおける課題

- ・グループ内にサポートが必要な子どもがいる可能性を考慮して、ナビゲーターはサブをいれて2人にすべき、との指摘がありました。
- ・今回のグループは人数の関係もあり、1年生数人の中に2年生が1人というグループが出来てしまいました。1年生は1年生でかためてグループをつくらないと、その中に2年生が1人だけと言う状況は、意見を出しにくくさせてしまいます。

時間における課題

- ・対話型鑑賞の時間があと10～15分あれば、もっと楽しく面白い話が聞き出せたかもしれません。
- ・低学年にコラージュは少しレベルの高い作業でした。そして、絵本・ワークシートは少したいへんな作業だったので、時間の足りない子どもたちがたくさん出てきてしまいました。制作が途中のまま帰ってしまうと達成感が小さくなってしまうので、作品の紙のサイズを小さくするなどして、ワークショップの時間内に作品を完成させる工夫が必要だと思います。

報告者：柴田美帆子（大阪新美術館建設準備室 外部研修生）